

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079900215		
法人名	有限会社 たかみねの里		
事業所名	グループホームたかみねの里		
所在地	福岡県田川郡大任大字大行事2745番地 (電話) 0947-63-2032		
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果確定日	平成23年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して6年目にて更新も一応終わり、正式な手続きは今からですが、6年も経てば当初入所されていた方達が6歳年を取ったこと、今迄手の必要な方があまりいなかったのですが、全員介助を必要とするようになり、病気に対しても色々な病を持っている人、その管理がとても大事となり、一步間違えれば死をまねくこと、事故を引きおこすこと、毎日の介護にはとても気を使います。その中で、介護スタッフ・看護スタッフと毎日協力し合い、管理者をしています。掃除にも力を入れ、いつも清潔な施設、病気を引きおこさせない看護・介護に力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成23年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園の中に位置し、静かで自然豊かな環境にある。共有空間は広く、綺麗に手入れされた庭園がゆったりと眺められ、利用者は思いおもいに過ごしている。看護師資格を持つ職員が複数おり、看護・介護支援に関して指導的役割を担い、職員が一体となって理念である「介護から快護へ・・・」が実践され、利用者の穏やかな表情につながっている。また、事業所は、職員の資格取得を推奨し、働きやすい職場環境を整え、利用者一人ひとりのよりよいケアへ日々取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護から快護へ」を理念として掲げている。カンファレンスや日々のミーティングにおいてホームでの生活やケアが入居者様にとって快いものになっているのか、また「尊厳」の重要性や個性を尊重した介護となっているのかを話し合い常に愛情を持ってケアに取り組んでいる	事業所独自の理念に、地域密着型サービスの視点が含まれている。職員は、定期的に理念の共有と実践について話し合い、言葉かけ等、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年5月の神幸祭では神輿にホームの庭まで来て頂いています。保育園も2箇所から訪問をしていただき入居者様との交流が行われている。県立大学から「和太鼓」の慰問もあり入居者様も喜ばれる。日常生活の中での散歩や買い物の中でも地域の方との交流は継続して行われている。	夏祭りや敬老会等の地域行事へ参加し、また事業所主催の行事に地域住民を招待する等、地域との交流に努めている。近隣の保育園や大学と交流があり、隣近所の人達とは散歩時等に気軽に挨拶や声かけし、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設6年目となり徐々に地域との交流も広がっているが现阶段では地域に出かけ認知症を理解していただく為の取り組みが不十分である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、役場の担当者、民生委員の方にご参加いただき小規模多機能ホームと合同で2ヶ月に1回開催している。主に行事報告や施設内での様子、参加者との意見交換が行われている。問題があれば一緒に考え、会議の場で解決できるようにしている。ご家族にはご理解、ご協力を得られる場になっている。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を開催している。利用者やサービスの現状、外部評価への取り組み状況等を報告している。委員からは、利用者への対応や他事業所との交流等について意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当者が運営推進会議に出席されるので会議や電話でご助言、ご指導をしていただいている。	定期的に行政窓口へ事業所便りを持参し、事業所の現状報告・相談等を行い、協力関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の夜間の施錠以外は自由に出入りできる。入居者様の「尊厳」を考えながら身体拘束を職員が理解しケアを行っている。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部研修を行っている。研修記録がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守り、声かけをしている。地域住民にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスを開き、虐待について話し合い、自分（スタッフ）のストレスについて注意して介護に努めるようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が活用されている。制度に関するパンフレットを取り寄せ本人、ご家族への説明を行いご理解いただいている。	利用者・家族等へは、利用開始時に制度について説明している。権利擁護に関するテキストはある。	職員が制度についていつでも利用者や家族へ情報提供できるよう、内部または外部研修への参加の機会を持ってほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族に問題点や不明な点がないか尋ね、あれば納得ができるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時、個々に意見を聞き意見が出た場合は時間をとり聴くようにしている。	利用者・家族等の意見は、日々のケアの中や家族来訪時等に積極的に声かけて聴取するよう努めている。また年1回開催する家族会での意見、要望、苦情等は、その都度協議し、ケア内容を見直す等、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時間問題点や意見を聴き反映している。	施設長は、ミーティング時等に職員の意見や要望を聴取する機会を積極的に設け、施設を改装する等、意見を運営に反映している。施設長へ直接話しにくい場合は、別の職員が意見等を聴取する機会を設ける等、工夫している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの話を聴くことができるよう個別に面接を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたり性別や年齢等にはこだわっていない。職員に対しては一人ひとりの個性を活かすことができ、質の向上を図ることができ職場の環境作りに努めている。	職員の採用にあたっては熱意を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員が資格取得できるよう支援している。定年後に嘱託制度があり、本人が希望すれば引き続き働ける環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対しては、氏名で呼ぶようにしている。慣れで名前で呼ぶことがありますが、スタッフ同士で注意しながら介護に取り組んでいる。	施設長は利用者に対する人権の尊重を重んじ、日頃から職員へ指導している。人権に関するテキストはある。	全職員が内部または外部研修へ参加の機会を持ち、人権教育を実施してほしい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修スケジュールを立てて、スキルアップを図るようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村との話し合いをし、ネットワーク作りや交流会を開き、活動ができるよう進めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な情報収集を行い、どのような要望があるのかを知る。また常に困っていること不安なことがないか観察しながらケアを行っている。話は傾聴することを心がけ安心感を持っていただけるよう努め信頼関係の構築に心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を傾聴し共感することで不安の軽減につなげている。わからない事や困った事がいつでも言える環境作りを行い安心していただけるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が何を必要としているのかや何を必要としているのかを見極め早急に要望に応えることができるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が今まで過ごしてきた歴史の中での経験、知識、文化などを日々教えていただき職員が知った上で喜怒哀楽を共にし関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様へのケアをご家族にも協力していただいている。絆を大切にしていくことで家族関係の向上にもつながっている。また入居者様を通じてご家族との情報の共有をすることができ職員との関係向上にもつながっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前に通われていたスーパーや美容室、定期的に通われていた病院など継続して通ってもらっている。面会は制限を設けず友人、知人の関係も途切れることがないよう努めている。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握し、利用者の馴染みの人に来訪してもらったり、馴染みの場所へ出かける等、人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの個性がありトラブルがある。トラブルを解決するために職員が入居者様の個性や関係を十分に理解し間に入り良好な関係を保つことができるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が入院などにより契約が終了しても面会に行き、ご本人、ご家族の状況を把握し、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者様に声かけを行うことを徹底している。会話の中での思いや言葉の裏側に隠された思いにまで耳を傾けるよう心がけている。意思疎通の困難な入居者様には表情や行動を見つめ関わる時間を多く持つことで思いや希望を汲み取るよう努めている。	利用者の表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、また声かけして希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族等や関係者から情報を得て本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族、友人などから情報収集を行い日常生活の中にも取り入れている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がケアの中で得た情報は全員で共有し入居者様のストレスに目を向けた支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意見や希望を取り入れ、また主治医に相談した結果も踏まえ、担当者が作成しカンファレンスでの話し合い担当者以外の職員の意見も取り入れている。	介護計画は本人、家族、職員等の意見を反映し、個別具体的に作成している。計画の見直しは6ヶ月に1回行い、状況の変化により随時見直しをしている。介護計画作成後は家族等へ説明し、署名・押印をもらっている。状態変化時は、その都度家族等へ電話連絡し、報告している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録についてはどの職員でも、いつでも記録や閲覧ができるようにしている。申し送りにおいても入居者様一人ひとりの状況が共有できるよう行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、その都度外出、買い物、に職員が同行し支援している。ご家族との連絡調整をし外泊支援も行っている。希望があれば職員の親睦会（バスハイク）にも参加していただくなど柔軟な対応に努めている。また入院時の洗濯の代行、看護職と主治医との連携をとりご家族への説明を行い安心していただけるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防団・理美容院・保育所へ対し理解と協力を得る働きかけをしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の要望に沿ったかかりつけ医にて受診できるようにしている。看護職が多いことで受診時には看護師が同行し主治医との連携が良好に図れている。	本人及び家族等の希望を大切にし、今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診時の通院介助や情報伝達の方法について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りの中で、わからない事があればその場で解決できるよう努めている。常に日常生活の中で何かあれば連絡・報告の徹底を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護職が常駐しており医療関係者との情報交換や関係づくりは良好である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療処置が必要になった場合、看護職により対応できる範囲であれば終末期の対応を行う。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、主治医で話し合っている。	重度化や終末期の方針については明文化し、できるだけ早い段階から家族・本人の意向を確認し、医療関係者ならびに全職員で方針を共有して支援してほしい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、消防署主催の救急救命講習会にも積極的に参加している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い消防署から指導を受けている。消火器の使用方法や避難訓練の実施、夜間の職員の連絡網での訓練も行っている。地域との連携については協力を得られるよう呼びかけを行っている。	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て、法人全体で消火訓練、緊急通報、避難訓練を行っている。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。また、災害に備えて、非常用食料・飲料水、備品を準備してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分注意して入居者様、ご家族と関わりを持つよう努めている。「尊厳」に十分配慮しゆっくり優しい口調で接するよう心がけている。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないよう日頃から指導している。内部研修を実施し、マニュアルを作成する等、職員の意識向上を図っている。研修記録等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から希望を言い出しやすい雰囲気づくりに心がけている。思いや希望を聞くことができた場合には、その思いを尊重しできる限り応えることができるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や業務を併せて行っていけるように最善のチームケアができるよう人員配置を意識しながらケアに取り組んでいる。入居者様の希望には最大限応え、散歩や買い物などの外出支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理美容院や訪問理美容を入居者様の希望に合わせて利用できるようにしている。また衣類や化粧品などの要望があれば買い物に同行している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に簡単な調理を行ってもらい食事を食べるだけでなく、料理を作るという過程も大事にしてもらい成功体験をできるだけ多く取り入れるようにしている。また配膳や下膳も積極的に行うことができるよう声かけを行っている。	食事は、隣接の有料老人ホームで調理したものを配膳している。職員は利用者と一緒に準備や片付けを行い、見守り介助に徹している。利用者希望の音楽を聴きながら、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	毎日の食でも事業所内で利用者と職員が食事を準備をし、副菜一品でも同じものを食べてほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が主となり調理を行っている。内科的疾患(糖尿病、腎臓高血圧など)を持っている入居者様には糖分、塩分、水分量も十分に考慮し毎日個別に把握記録を確実にしている。また医師の診察により変更などがある場合は申し送りにより各職種間で情報の共有ができるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様全員に毎食後の口腔ケアの働きかけを行っている。自立でできる方、介助の必要の方がおられるので毎日一人ひとりの口腔内観察を行いながら見守りや介助を行っている。口腔内に異常のある場合は歯科受診を行ってもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄記録をとり一人ひとりの排泄リズムやパターンを把握し必要に応じて声かけを行うようにしている。できるだけトイレでの排泄を優先している。排泄においても入居者様の成功体験を大切にしている。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握している。排泄チェック表を作成し、排泄の自立を意識したケアに取り組んでいる。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、さりげなく対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様、一人ひとりの排便パターンを把握し、食事内容や水分量、運動量に気をつけて予防に取り組んでいる。抗精神薬を服用している方は主治医と相談しながら緩下剤を服用してもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	大浴槽と小浴槽とがあり、本人の希望を第一に季節や天候によって使い分け入浴を行っている。また入浴剤も変化させ工夫をしている。	大まかな入浴時間等の設定はあるが、利用者一人ひとりの希望や状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。入浴拒否の利用者へは、タイミングを計ったり、声かけ等を工夫し、また近隣の温泉へ出かける等、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーション、散歩、家事などの役割分担などで活動的に過ごしてもらえるよう支援している。眠りにつくことができない入居者様には温かいお茶を用意し、眠ることができるまでコミュニケーションをとり精神的に安心できるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が責任を持って行っている。また受診には看護師が同行しているため変更等がある場合はカルテへの記入、申し送りでの報告を必ず行うよう徹底している。服薬を行う際は誤薬のないよう2人の職員で間違いがないかのダブルチェックを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの能力に応じた作業を行ってもらい成功する喜びを感じることができるよう支援している。また家事全般も希望に合わせて行うことができるよう入居者様のペースに合わせて行えるように心がけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩にでかけたり希望を聞きながら行事計画を立て花見、バスハイク温泉や観劇などを行っている。その際にはご家族にも協力してもらい、できるだけ一緒に参加してもらえよう呼びかけも行っている。	利用者一人ひとりの希望や体調、天候等を考慮しながら、散歩や買い物、ドライブ、外食等支援している。季節の花見や温泉、観劇鑑賞等、普段は行けないような場所への外出も家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などに出かける際は自己管理できる方においては自由に買い物を楽しめるよう心がけている。支出においては施設内にて本人、ご家族の同意を得て明確に管理し報告を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族への電話も行うことができる。家族や友人からの手紙は本人へ手渡し、場合によってはメッセージカードなどは部屋に飾ることもできる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、ホールからは中庭を見ることができ、季節の花々が植えてある。24時間の換気システムを取り入れている。また二重サッシにより強い陽射しを防ぐことができるよう考慮している。	共有空間は、ソファを設置し、観葉植物や利用者の活動写真等を飾り、生活感に配慮している。気になる臭いや音はなく、落ち着いた雰囲気である。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室以外にもテラスなどを設けており自由に談話できるよう工夫している。庭にはテーブル、椅子を配置した憩いの場もあり、いつでも利用できるようになっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にご家族との連絡を取り、相談しながら入居者様の使い慣れた家具などを使ってもらっている。そのことにより急激な環境の変化による混乱や不安にならないよう心がけている。希望があれば仏壇などの持ち込みもできるようにしている。	居室は、利用者及び家族が選んだ家具や利用者の馴染みの物、家族写真、仏壇等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の残存機能を活かせるよう支援している。転倒につながる恐れのあるもの、車椅子移動の際に邪魔になるものなどに関しては整理・整頓を常に心がけ危険のリスクをなくすよう努めている。角が危険な場合は安全ガードを使用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない